



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

神栄株式会社

証券コード:3004



中間報告書

第**157**期

2024年4月1日～2024年9月30日

ごあいさつ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第157期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の事業の概況につきまして、報告申し上げます。当中間期におきましては、期中に1ドル160円を超える超円安から、一時140円を切るレベルに円が短期間に強くなるなど、外的環境の変動への対応が難しい状況となりました。

また、ウクライナや中東情勢など世界経済に大きな影響を与える地政学上のリスクが引き続いて存在することや、為替や金利動向の不透明さ、人手不足や物流2024年問題等によるコストアップなどを勘案いたしますと、予断を許さない状況にあります。

このような状況ではありますが、本年4月から始まっております新中期経営計画「神栄チャレンジプロジェクト2026」の初年度としての成果を通期で出せるよう、下半期におけるさらなる事業推進のため、社員一同一致協力し、一層尽力いたす所存でございますので、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年11月

代表取締役社長 赤澤 秀朗



当中間期の業績

当中間連結会計期間における世界経済は、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりに加え、インフレ圧力による影響が継続する中、米国では良好な雇用環境や底堅い個人消費によって景気は堅調に推移し、東南アジアではサプライチェーン再編の動きに伴う生産拠点の移転などが輸出の復調を牽引し、好影響をもたらしました。一方、中国では輸出は増加傾向にあるものの、長引く不動産市場の低迷により景気減速傾向が継続しました。

わが国経済は、設備投資の増加基調が持続するとともに、インバウンド需要が拡大し個人消費も緩やかな回復基調にある一方で、原材料費の高止まりに円安の影響も受けた輸入コストの上昇に加えて原油価格高騰の懸念も高まり、さらには人件費や物流コストも増加が続くなど、依然として不透明な状況が継続しました。

当社グループにおきましては、2027年3月期までの3年間を対象とする新たな中期経営計画「神栄チャレンジプロジェクト2026」を策定し、本中期経営計画の3年間累計の連結経常利益55億円以上を目標として掲げ、安定した収益確保や総資産の効率的運用により自己資本比率をさらに向上させつつ、資本コストを上回る収益性の

維持に取り組んでおります。また、従来の繊維関連を事業開発関連に再編し、社会課題の解決やサステナブルな社会の実現を目指した新規事業および新たなビジネスモデルの開発をこれまで以上に強力に進めるとともに、競争力のある事業ポートフォリオの組成により安定した収益を確保してまいります。

当期間における当社グループの売上高は、前年度に行った繊維事業からの一部撤退により減少したことなどで、全体では19,702百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

利益面では、食品関連の冷凍食品分野において、仕入コストの急激な上昇に対応した販売価格調整による利益率の回復が大きく寄与した前年同期とは対照的に、円安の長期化による仕入コスト上昇や物流コストの増加に対して取組んだ販売価格調整の当期間内における寄与が限定的で利益率が低下したことにより、営業利益は600百万円（前年同期比37.3%減）、経常利益は575百万円（前年同期比44.8%減）となりました。また、特別利益に不動産売却に伴う固定資産売却益を計上し、親会社株主に帰属する中間純利益は501百万円（前年同期比38.2%減）となりました。

当期の業績見通しについて

今後の世界経済は、中東やウクライナにおける紛争の長期化による地政学上のリスクおよびインフレ圧力による影響が継続する中、米国では景気回復の傾向が見られる一方、中国では長引く不動産市場の低迷により景気減速傾向が継続しています。わが国経済においては、為替相場の動きが不透明な中、資源価格や原材料費の高止まり、人件費上昇や物流コストの増加などもあって依然不透明感が拭えない状態が続いております。

当社グループでは、中期経営計画「神栄チャレンジプロジェクト2026」に基づく各施策を進める中、当期は各セグメントにおいて以下のとおり取組んでまいります。

まず食品関連における国内冷食事業では、冷凍野菜・冷凍調理品の需要を確実に取り込むほか、製品価格高騰が続くとみられる冷凍水産加工品の販路拡大に取り組めます。また農産事業においてもナッツ類などの拡販を進めることで、引き続き収益拡大につなげてまいります。

物資関連においては、防災関連分野でアゼルバイジャンにおける新たなプロジェクトを成約し現地での業務を加速させることに加え、建築金物・資材事業や北米向け輸出事業などの各商材においても着実に受注を積み上げることで、収益確保に努

めてまいります。

電子関連においては、センサ機器分野では高付加価値品の拡販やシステム・サービスの販売拡大に注力し、計測・試験機器分野では医薬品物流における収益モデルの確立や新たな市場開拓など、将来の成長に向けた基礎固めを進めてまいります。コンデンサ分野では、車載用途の本格量産を開始するほか、回復基調を見せる産業分野での受注確保等により収益の改善を目指します。

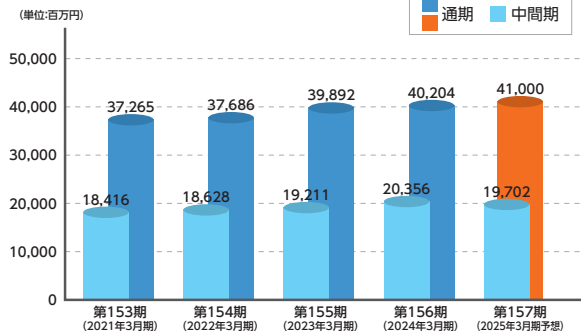
事業開発関連においては、共通価値の創造を体現する新規事業の開発を強力に進めるほか、注力しているテレビショッピング向けアパレル通販事業において、取扱いブランドの拡充を進めることで事業拡大・収益基盤の強化を進めてまいります。

通期の連結業績予想としましては、当中間期の実績および今後の見通しを踏まえ期初予想を据え置くこととし、売上高は41,000百万円、営業利益は1,750百万円、経常利益は1,650百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,350百万円を見込んでおります。配当につきましても、当初予想のとおり、1株当たり90円を予定しております。

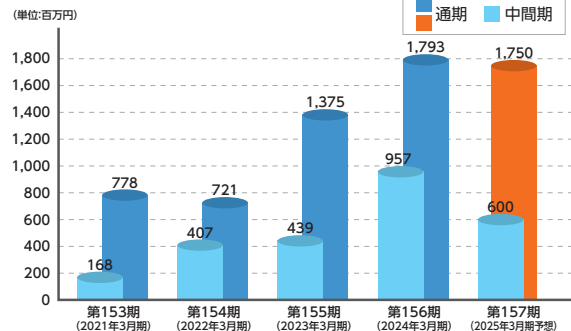
今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

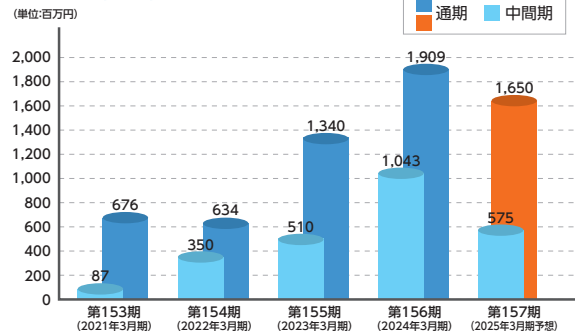
売上高(連結)



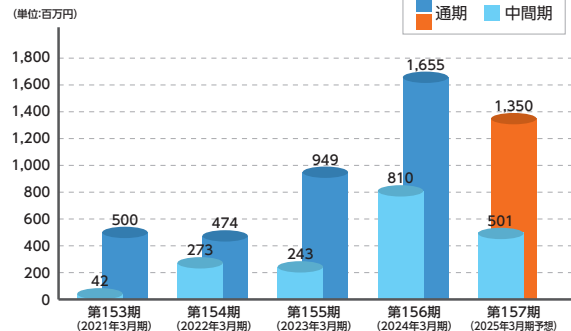
営業利益(連結)



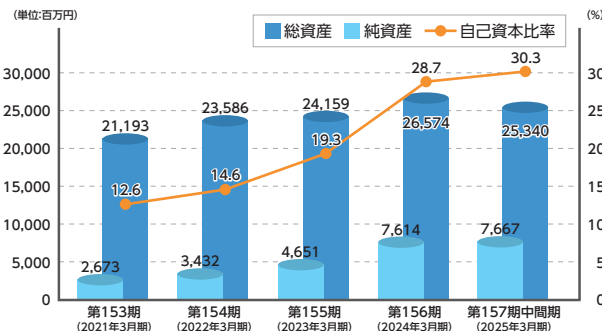
経常利益(連結)



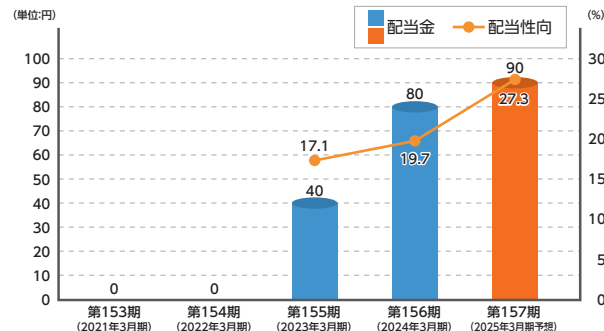
親会社株主に帰属する純利益



純資産・総資産(連結)、自己資本比率(連結)



1株当たり配当金・配当性向(連結)

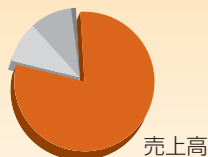


(注)「収益認識に関する会計基準」等を第154期から適用しており、第154期以降については当該会計基準等を適用した後の金額を表示しております。

事業分野別の概況

食 品 関 連

- 売上高 15,719百万円
- セグメント利益 836百万円



食品部 取扱商品
(ヨーロッパ産ポテト加工品)

食品業界の輸入食材を取り巻く環境は、国内における経済活動の正常化の動きが進み、インバウンドの回復を含め、幅広い業態において食品需要に回復の動きがみられるものの、外食産業をはじめ各分野での人手不足の問題が継続しました。

また海外仕入国での工場経費などの高騰や国内においても物流コスト、人手不足対策の人件費上昇などのコストアップ要因が依然として継続しました。

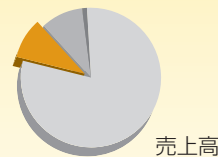
このような状況の中、当社グループの冷凍食品分野では、強みである品質管理体制を活かした医療老健施設向けなど品質管理要求の高いルートへの販売に引き続き注力しながら、幅広い業態で回復の動きをみせた需要を取込むべく生産から物流管理にわたるサプライチェーンの安定化による強みを発揮したことで、冷凍野菜・冷凍調理品の販売量は増加しましたが、価格高騰による消費低迷が続いた冷凍水産加工品の販売不振が影響し、また台風10号の影響もあり全体として売上は減少しました。また想定を超えた円安基調の長期化による仕入コスト上昇に対して販売価格調整に取組みましたが、当期間内の寄与が限定的となったことから利益は大幅に減少しました。

農産分野は、円安基調における市場の仕入姿勢の慎重化の動きが継続したことに加え、主力のカシューナッツをはじめとしたナッツ類の価格が高止まりし、販売量が減少したことで、売上・利益ともに減少しました。

その結果、食品関連の売上高は15,719百万円(前年同期比3.1%減)、セグメント利益は836百万円(前年同期比29.3%減)となりました。

物 資 関 連

- 売上高 1,862百万円
- セグメント利益 214百万円



輸出事業を取り巻く環境は、半導体不足の緩和や国際物流の回復による世界経済の活動再開に加えて円安傾向などの要素によって好転し、輸出数量は緩やかな増加傾向が続きました。

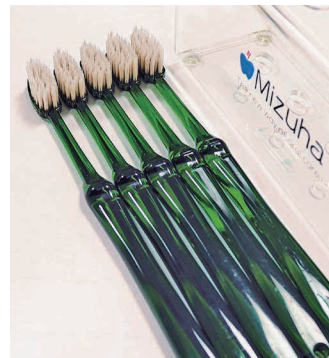
このような状況の中、当社グループの機械機器・金属製品分野では、鋳物の輸入販売が減少した一方で、北米向け等の試験機器の取扱いが伸長し売上は増加しましたが、建設機械の取扱いが先送りとなったこともあり、利益は減少しました。

また、防災関連分野では、新規現地調査案件への移行の過渡期にあたり、売上・利益ともに大幅に減少しました。

国内における住宅建設関連については、集合住宅着工数が増加したこともあり、当社グループの建築金物・資材分野では、建築金物・輸入ガラスともに堅調に推移し、売上は増加、利益はほぼ横ばいとなりました。

生活用品分野では、オーラルケア製品と毛材の販売が伸長したことで、売上・利益ともに増加しました。

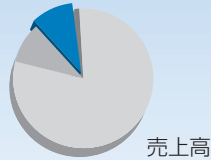
その結果、物資関連の売上高は1,862百万円(前年同期比2.0%減)、セグメント利益は214百万円(前年同期比16.9%減)となりました。



産業資材部 取扱商品
(歯ブラシ THE SMART MISWAK)

電子関連

- 売上高 1,917百万円
- セグメント利益 160百万円



電子部品業界は、在庫調整局面の解消と半導体不足の緩和やサプライチェーンの安定化による着実な回復基調が期待されるものの、産業機器市場向けは当面は弱含みが予想され、民生市場でもスマートフォンの需要低迷傾向からの回復は緩やかなものとなりました。

当社グループのセンサ機器分野では、粒子計測機器や民生用途の湿度センサが堅調に推移したものの、車載用途のホコリセンサ・湿度センサがともに減少したことから、売上・利益ともに減少しました。

計測・試験機器分野では、吸収分光式水分計測機器の販売が大幅に伸長したことに加え、輸送や梱包に係る各種試験機も増加したことから、売上・利益ともに大幅に増加しました。

コンデンサ分野では、産業機器用途などの減少により、売上・利益ともに大幅に減少しました。

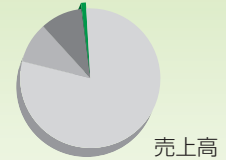
その結果、電子関連の売上高は1,917百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益は160百万円(前年同期比7.2%増)となりました。



神栄テクノロジー(株) 取扱製品
(CRDS 微量水分計 DewTracer mini CRDS-H₂O)

事業開発 関連

- 売上高 203百万円
- セグメント利益 △24百万円



当中間連結会計期間より、報告セグメントの変更を行い、繊維関連を再編し、新規事業の開発および新たなビジネスモデルの開発を行うとともに将来性が見込まれる事業の発展に取組むことを目的とした事業開発関連を報告セグメントに加えしました。

社会課題の解決やサステナブルな社会の実現を目指した新規事業や新たなビジネスモデルの開発については、専任の部署が鋭意調査・研究を継続しております。

育成事業としてのアパレル通販分野では、テレビショッピング向けの既存の取扱いブランドに加え、新たにデビューした新規ブランドの夏物および秋物商材の販売が好調に推移しました。また、繊維事業からの一部撤退により売上は大幅に減少しましたが、採算性は改善し、損益は大幅に改善しました。

また、同じく育成中の食品輸出分野では、香港の小売市場の低迷により荷動きが鈍化したことで、香港向けの菓子類などの輸出が減少しました。

その結果、事業開発関連の売上高は203百万円(前年同期比36.2%減)、セグメント利益は24百万円の損失(前年同期は68百万円の損失)となりました。



アパレル通販事業グループ 取扱商品
(新ブランド「CHILLO(チーロ)」)

中間連結財務諸表

》中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前決算期	当中間期	科 目	前決算期	当中間期
	2024年3月31日 現 在	2024年9月30日 現 在		2024年3月31日 現 在	2024年9月30日 現 在
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流 動 資 産	16,899	16,028	流 動 負 債	13,442	11,292
固 定 資 産	9,673	9,311	固 定 負 債	5,518	6,380
有 形 固 定 資 産	4,072	3,943	負 債 合 計	18,960	17,673
無 形 固 定 資 産	150	130	(純 資 産 の 部)		
投 資 そ の 他 の 資 産	5,450	5,237	株 主 資 本	5,288	5,478
繰 延 資 産	1	0	資 本 金	2,065	2,065
			資 本 剰 余 金	607	605
			利 益 剰 余 金	2,777	2,951
			自 己 株 式	△162	△143
			そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	2,325	2,188
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	2,399	2,234
			繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	4	△36
			為 替 換 算 調 整 勘 定	△78	△9
			純 資 産 合 計	7,614	7,667
資 産 合 計	26,574	25,340	負 債 純 資 産 合 計	26,574	25,340

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

》中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	2023年4月1日から2023年9月30日まで	2024年4月1日から2024年9月30日まで
売上高	20,356	19,702
売上原価	15,962	15,626
売上総利益	4,394	4,076
販売費及び一般管理費	3,437	3,476
営業利益	957	600
営業外収益	224	103
営業外費用	138	128
経常利益	1,043	575
特別利益	—	79
特別損失	51	5
税金等調整前中間純利益	991	649
法人税、住民税及び事業税	156	122
法人税等調整額	23	26
法人税等合計	180	148
中間純利益	810	501
親会社株主に帰属する中間純利益	810	501

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

》中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	2023年4月1日から2023年9月30日まで	2024年4月1日から2024年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	28	886
投資活動によるキャッシュ・フロー	△57	44
財務活動によるキャッシュ・フロー	17	△1,211
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	36
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1	△245
現金及び現金同等物の期首残高	1,251	1,459
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,253	1,214

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

1

新商品「ベトナム産カット済みケーキ」6種の販売を開始

神栄(株)食品部

当社食品部では、冷凍食品事業の持続可能な安定的拡大に向け、サプライチェーンの拡充に取組んでおり、タイ・ベトナムなど東南アジアからの仕入拡大を進めています。その一環として2024年7月より業務用冷凍デザート類に「ベトナム産カット済みケーキ」6種類を新商品として追加し、販売を開始いたしました。

ラインナップとして、ブラウニー（チョコチップ入り）、バイクドチーズケーキ、チョコムース、ティラミス、マンゴー、ストロベリーを取りそろえ、日本向けに味付けをアレンジしました。また、1箱大（200g～380g）のフリーカットケーキを1口サイズ（36個）にカットすることにより、お客様に提供する際の作業軽減が可能で、外食ルートや旅館・ホテルなどの宿泊施設向けに好評を得ており、さらなる販路拡大が期待できる商品です。

今後とも、「食のモノづくり商社」として、幅広いラインナップと高い品質管理体制、強力な物流機能といった強みを活かし、お客様のニーズにお応えしながら、さらなる拡大を推進してまいります。



カット済みケーキ6種



カット済みケーキ(箱入り)

トピックス

2

中国現地法人の本社事務所を移転

神栄商事(青島)貿易有限公司

当社グループの中国現地法人である神栄商事(青島)貿易有限公司は、本年5月20日、本社事務所を青島市中心部にあるシャングリラセンターに移転しました。

同社は中国における冷凍食品や農産物、アパレル製品の生産・品質管理機能を担うなど、当社グループが中国から輸入する商材について重要な役割を果たすとともに、日本品質の冷凍食品の中国本土での販売や香港への輸出にも取り組んでいます。今般、従業員の執務環境の改善やコミュニケーションの一層の向上を図るべく、青島市の中でも利便性が高く、日系企業も多く入居する同オフィスビルに移転しました。9月12日には、中国各地より取引先51社を招待して記念式典を盛大に開催し、各社との親睦を深め関係強化につなげることができました。

また、同社上海支店についても、冷凍食品内販事業強化のため、調理設備を備えた新オフィスへの移転を来年1月に予定しており、中国における機能強化を図ってまいります。



新事務所エントランス



記念式典の様子

トピックス
3地震発生時の安全性に
配慮した「防煙垂壁」を拡販

神栄ホームクリエイト(株)

神栄ホームクリエイト(株)では、商業施設や事務所、工場等の天井部に設置されている防煙垂壁を販売しております。

防煙垂壁とは、建築基準法に定められている防煙区域に用いられる間仕切り壁で、火災時の煙を誘導・遮断する排煙設備のひとつです。従来はガラス製が一般的でしたが、地震により天井に設置された防煙垂壁の落下や割れたガラスの破片による負傷の事案が相次ぎ、その安全性が課題となっています。

このような課題に対応する製品として、ガラス製に代わる軽量で割れる心配の少ない不燃シートを用いた防煙垂壁が開発され、同社でも時代の先を見据えて不燃シート防煙垂壁“パラスモークS”を10年以上前から販売しております。最近では、日本各地における地震発生や南海トラフ地震等の災害リスクを意識してユーザーの関心も高まり、本製品の引合いが増えております。

今後とも、安全で安心な製品の開発・販売に取り組んでまいります。



防煙垂壁“パラスモークS”

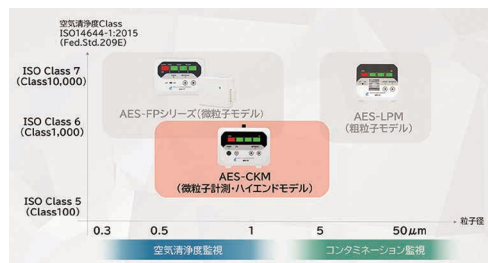
トピックス
4パーティクルセンシング
モニターのラインナップを拡充

神栄テクノロジー(株)

神栄テクノロジー(株)は、2021年にリリースした空気清浄度管理に最適なパーティクルセンシングモニターの新モデルとして、より空気清浄度が高いクリーンな環境を監視できる「AES-CKM」(微粒子計測・ハイエンドモデル)を2024年6月に販売開始し、電子部品・精密部品製造、機能性フィルム製造など産業分野のお客様へ順調に出荷実績を積み上げています。

これまでは、計測対象の粒子の大きさによって「微粒子モデル」と「粗粒子モデル」を使い分けて計測されていたものを、ひとつのモデルで両方計測できないかというニーズを受けて、新モデルでは、 $0.5\mu\text{m}$ 以上の微粒子と $5\mu\text{m}$ 以上の粗粒子の同時計測が可能となり、さらにより空気清浄度が高いクリーンな環境での細かな監視に対応しました。また、市販のモバイルバッテリーからの給電もできることで、電力線がない場所での計測等を可能にする新機能も実装しました。

今後も粒子計測関連でさらなるラインナップ増強を図り、お客様の生産性向上や現場改善をサポートしてまいります。



パーティクルセンシングモニター ラインナップ

トピックス
5

テレビショッピング向け アパレルブランドを拡充

神栄(株)アパレル通販事業グループ

当社アパレル通販事業グループでは、テレビショッピング向けアパレル通販事業において、取扱いブランドの拡充に取り組んでいます。2024年5月に「CHILLO(チーロ)」、8月に「abimeill(アビメイユ)」が新ブランドとして大手テレビショッピングにおいてデビューいたしました。

「CHILLO」は、大人のための“Comfortable Retreat Style”をテーマとして、旅行、森林浴、海岸の散歩など、都会の喧騒を離れリラックスした環境に身を置き、心も身体もリフレッシュする、ラクでモダンなリトリートウェアです。

「abimeill」は、「手の届くラグジュアリースタイル」をテーマに、ハイクオリティニット素材を厳選し、イタリアの老舗紡績メーカー・カリアッジ社が誇る高品質のカシミアを使用した商品は、こだわりの素材と技術によって生まれた優しい肌触りや鮮やかな色使いが特徴です。

引き続き、既存ブランドのボリューム拡大に加え、新たなブランド展開を行うことで、お客様にご満足いただける価値ある商品を提供し、テレビショッピング向け事業の拡大を通じて収益貢献を図ってまいります。



商品イメージ「CHILLO」(左側)「abimeill」(右側)

トピックス
6

個人投資家向け オンライン会社説明会を開催

神栄グループ

当社グループでは、好調な業績を背景としたIRの強化により、株式市場での認知度を高め株式流動性(時価総額や出来高)を向上させる取り組みを推進しており、その一環として、当社グループの事業や今後の成長性に対する理解促進のための情報発信を拡充すべく、前年に引き続き、個人投資家向けのオンライン形式での会社説明会を開催しています。

本年9月7日に開催した説明会の内容については、現在オンデマンド配信も行っており(2025年3月末まで)、参加者から寄せられたご質問への回答も当社ウェブサイトに掲載しています。

今後も個人投資家向け会社説明会の開催を予定していますので、是非ご参加ください。

詳細については当社ウェブサイト
「個人投資家向け説明会」ページを
ご覧ください。



<https://www.shinyei.co.jp/ir/financial/briefing.html>



企業ムービー・会社案内パンフレットをリニューアル

神栄グループ

当社グループでは、新たな中期経営計画「神栄チャレンジプロジェクト2026」のスタートを機に、企業ムービーおよび会社案内パンフレットのリニューアルを行いました。

企業ムービーは、経営理念やパーパス、パーパスに基づいた各事業部門の取組み、SDGsやCSV^(※)の観点、これまでの歴史で培ってきた強みを活かした今後の成長などを盛り込み、そのストーリーを「グラフィックレコーディング」という手法でビジュアル化しています。また、多くの従業員が出演し、親しみを持っていただけるものとなりました。

会社案内パンフレットについては、神戸のご

当地キャラ「コベピポ」を手掛けるイラストレーターの都あきこさんにデザインを依頼し、神栄のコーポレートカラー（神栄フレッシュブルー）を基調に神戸の街並みや人々を配置しつつ、神栄グループの多様な事業内容がひと目で分かる内容となっています。

それぞれ、当社ウェブサイト「デジタルコンテンツ」ページにも掲載していますので、是非ご覧ください。

(※) Creating Shared Value (共通価値の創造)の略称。企業が自社の事業や製品を通じて社会課題の解決に取り組み、かつ利益を得ようとする考え方

当社ウェブサイト「デジタルコンテンツ」：
<https://www.shinyei.co.jp/what/digital/>



当社公式YouTubeチャンネル：
<https://www.youtube.com/@神栄株式会社>



会社案内パンフレット



神栄(株)本社に掲示のグラフィックレコーディング

株式の状況

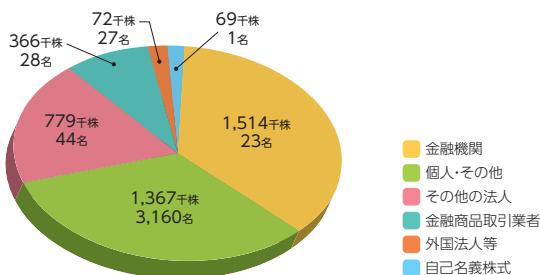
(2024年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 12,000,000株
- 発行済株式の総数 4,168,500株
- 株主総数 3,283名
- 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況 持株数(持株比率)
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	242千株 (5.90%)
株式会社メディアパルホールディングス	208 (5.09)
株式会社三井住友銀行	187 (4.57)
株式会社三菱UFJ銀行	187 (4.57)
株式会社みなと銀行	180 (4.41)
農林中央金庫	165 (4.03)
神栄グループ従業員持株会	126 (3.08)
株式会社ノザワ	122 (2.98)
岡三証券株式会社	109 (2.68)
株式会社さくらケーシーエス	101 (2.46)

(注)持株比率は、自己株式数(69,422株)を控除して算出しております。

所有者別分布状況



会社概要

(2024年9月30日現在)

- 社名 神栄株式会社(英文: SHINYEI KAISHA)
- 本社 〒651-0178
神戸市中央区京町77番地の1
- 設立 1887年5月24日
- 資本金 20億65百万円
- 従業員(連結) 462名
- 主要な事業内容(連結)
 - 食品関連 冷凍食品・水産物・農産物の販売
 - 物資関連 金属製品・機械機器・建築資材・
建築金物・生活雑貨の販売、
防災関連の調査・資器材の販売、
不動産業、保険代理店業
 - 電子関連 各種センサ・計測機器・試験機・
電子部品の製造・販売
 - 事業開発関連 新規事業開発、アパレル通販事業、
食品輸出事業

事業所

- 支店 東京支店、福岡支店、香港支店
- 研究所 神栄グループR&Dセンター
- 営業所 沖縄営業所、名古屋営業所
- 海外事務所 北京、ホーチミン、パクー、バンコク

子会社

- 神栄テクノロジー(株)
- 神栄キャパシタ(株)
- 神栄リビングインダストリー(株)
- 神栄ホームクリエイト(株)
- Shinyei Corp. of America (米国)
- 神栄商事(青島)貿易有限公司(中国)
- Shinyei Kaisha Electronics (M) SDN. BHD. (マレーシア)

役員

(2024年9月30日現在)

代表取締役 兼社長執行役員	赤澤 秀朗
代表取締役 兼専務執行役員	中川 太郎
取締役 兼執行役員	長尾 謙一
取締役 兼執行役員	小西 則一
取締役 (常勤監査等委員)	山水 教賢
*取締役 (監査等委員)	渋谷 一秀
*取締役 (監査等委員)	西原 健二
*取締役 (監査等委員)	中尾 一彦
*取締役 (監査等委員)	小島 幸保
執行役員	谷口 博一
執行役員	中西 徹
執行役員	岸本 勝
執行役員	小山 文也

(注) *印は、社外取締役であります。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当(期末配当金) 3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
(お問合せ先)
〒541-8502
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 公告方法 電子公告
当社ウェブサイト
(<https://www.shinyei.co.jp/>)に掲載
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 3004

単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式を所有される方は、その単元未満株式の数と併せて1単元(100株)になる株式の数を、当社に対して買増の請求することができます。また、単元未満株式の買取請求につきまして、お取扱いしております。

※株主様の住所・氏名のご変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求・買増請求などの各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問合せください。

※特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。また、三菱UFJ信託銀行本支店においても、お取次ぎいたします。

※未受領の配当金につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



<https://www.shinyei.co.jp/>

